

共通教育センター

共通教育 はやわかり 2023



神戸学院大学

目次

共通教育科目を学ぶ みなさんへ!!	2
共通教育センターが掲げる学生の到達目標およびカリキュラム・ポリシー	4
共通教育科目 開講科目一覧	6
共通教育科目 各学部の卒業所要単位・履修条件など	10

リテラシー領域

●言語分野【英語】	12
【ドイツ語】	14
【フランス語】	15
【中国語】	16
【韓国語】	18
【ロシア語】	19
●情報分野	20
●基礎思考分野	22
●高大接続分野	24
●キャリア教育分野	26
●国際化推進分野	27

リベラルアーツ領域

●神戸学院教養分野	28
●地域学分野	30
●芸術分野	32
●スポーツ科学分野	34
●ポーアイ4大学・TKK共通教養分野	35

各分野の開講科目は、学部学科によって異なりますので、
詳細は「履修の手引」で確認してください。

共通教育科目を学ぶ みなさんへ!!

新入生のみなさんは、ひとりひとりさまざまな目標や目的を持っています。大学では、自分の関心や興味を中心に学ぶことが可能ですが、それだけでは十分ではありません。学生としてあるいは人間として、神戸学院大学という共通の場で学ぶべき事柄があります。それを実現するのが、「共通教育科目」です。

この科目群は、みなさん個人個人が抱えている希望や願望を実現する土台づくりと、もっと大きな普遍的な価値である「真理愛好、個性尊重」という本学の建学の精神を実現するためのものです。

神戸学院大生であること!! 第一歩は「共通教育」科目から

神戸学院大学は、そうした大学の建学精神の実現を、学部教育のみならず共通教育を通して実現されることを願いながら、体系的なプログラムを組み、その実践のためにすべての分野に優秀な教員を配置しています。

大学が提供するカリキュラムは、入口から出口までの視点から作られており、共通教育においてもメニューをそろえています。共通教育カリキュラムは、独自の目標と価値を持ちつつ、学部教育への意義ある橋渡しの役割を担っています。

つまり、前向きに意欲をもって学べば学ぶほど、新しい世界が見えてきます。また、同時に学部教育へのスムーズな移行と展開が行われるよう関連付けと工夫がなされています。

一見すると見慣れた科目名称が並んでいると思われるかもしれませんが、大学で学ぶ事柄は、中学や高校で学んだ内容とは根本的に違います。そのことが少しでもわかってくると、学ぶ楽しさは倍増するでしょう。特に、理系、文系あわせて10学部からなる総合大学の特性を活かし、各学部よりリベラルアーツとして専門的視野に立つ基礎教養科目を設定しています。

新しい世界が見えてくる!

本当に新しい世界は、ただ面白いこととか楽しいことばかりといった世界とは違います。辛い苦い味わいもまた、新しい世界に含まれることを知らなければなりません。世界にはジレンマもあれば、^{*1}トリレンマもあります。

自分なりに答えを模索しながら、勇気を持って未知の分野に挑戦していくときの喜怒哀楽を、是非とも味わってほしいと思います。どのクラスにおいても、それぞれの分野のスペシャリストが新しい学問の流れを踏まえながら、わかりやすく丁寧に教授してくれるはずです。心配はいりません。

※1：トリレンマとは、ジレンマ（両刀論法）が二つの選択肢をもつものに対し、トリレンマ（三刀論法）は三つの選択肢をもつものをいう。三者択一を迫られて窮地に追いこまれること。

世界を読む、自分を育てる

共通教育を学ぶねらいは、二つあります。一つは、急激に変化し対立と混迷を深める世界情勢の動きを広く大きな立場から読みとる力を身につけること、そして、もう一つは、新しい基礎知識を積み上げて着実にワンランク上の自分を築くことです。

この二つは、いわば車の両輪のようなもので、いずれの学修が不十分でも、大学生として大きく伸びていくことは期待できません。

ワンランク上を目指すための、土台作りをしよう!!

共通教育のプログラムを必要に応じてしっかりと身につけることが、いわゆる学部教育でのさらなる伸びを促すことになります。学部教育の段階に至って、人格形成や学力がなかなか思い通りの結果と結びつかないケースをよく耳にしますが、それは一つには、基礎教育における地道な訓練を怠ることに起因すると従来から考えられています。

共通教育のプログラムは、みなさんが将来大きく伸びていくためのスプリングボードとして用意されているのです。これを活用しない手はありません。しかし、昔から「良薬は口に苦し」と言われますように、結果として大きな結果や効果をもたらすものほど、しばしば退屈でおもしろみのない学修の過程が不可欠な場合があります。つまり、おもしろみを実感し意欲がわいてくるまでに、少し時間がかかるのです。それは、スポーツ選手がやがていつの日か輝かしい栄冠を手にするために、厳しく辛い訓練を毎日繰り返し行う必要があるのと同様です。

これに耐えることが、いま神戸学院大生に求められているわけです。

前向きに、意欲を持って学んでください。そうすれば、かなりの成果を手中に収めることでしょう。

実力の証明、「資格・検定」に挑戦しよう!

共通教育のプログラムでは、みなさんがさまざまな外国語や情報処理の検定試験を受験するための科目も用意しています。

確かに、資格のあるなしによって、将来の進路が決まる場合があります。後になって大学生の間に資格を取っておくべきだったと後悔しないためにも、「資格・検定」に挑戦することも考えてみましょう。

もっとも、社会に出たときに有利だからといって検定や資格取得にばかり夢中になるのも大学生としては問題がありますが、持っている能力や努力の結果を測るわかりやすいものさしであることもまた事実です。自分の資質や将来の夢などを考慮に入れながら、できれば計画的に、挑戦してください。

将来の目標や生き方の実現のために、一歩ずつステップアップしていく自分を実感するのは、嬉しく、大きな励みになるでしょう。

共通教育センター

共通教育センターが掲げる学生の到達目標

神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーのもとに、共通教育センターでは以下の通り共通教育センターが掲げる学生の到達目標を定めています。

1. 調和のとれた心身のもとに文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備えている。
2. 学修した知識・技能を活用して社会と交わり、新しい価値を創造することができる。
3. 生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる。
4. 高い倫理観・責任感を以て社会に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

共通教育センターの開講する共通教育科目は、学生がその資質や才能を活かし、将来の夢を現実のものにしていくために、また生産性や効率だけで評価されるのではなく新しい価値を創造し、社会を変えていく原動力となるために、土台づくりを担うものです。そのために言葉や情報を理解し活用する能力を養成するリテラシー領域と、基礎的な教養を涵養するリベラルアーツ領域という2つの領域によって構成されています。

◎リテラシー領域

リテラシー領域は、【言語分野】、【情報分野】、【基礎思考分野】、【高大接続分野】、【キャリア教育分野】、【国際化推進分野】から成ります。

【言語分野】では、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語と留学生を対象とした日本語の各科目を提供します。聞く・読む・話す・書く四技能のバランスのとれたコミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門教育との関連にも留意しながら授業を進めます。言語の運用能力を身につけていく過程で、自身と他者の文化を客観的・相対的にとらえる態度や観点を育てます。また、到達水準を客観的に測ることができるよう、各種検定試験に対応した科目も提供します。

【情報分野】では、他者の権利を尊重し、高い倫理性を持ちながら、情報を活用することができるようにします。情報の信憑性を理解し、問題・課題を合理的に解決する判断力と、自らの考えを社会に伝える力を養います。また、情報活用力について客観的評価を得るために、各種検定試験に対応した科目も提供します。

【基礎思考分野】では、文章や数字を通して論理的に思考する能力を向上させます。さまざまな情報を読みとき、自分の考えを状況に応じて適切に表現する科目、および論理や方程式など数学的手法を活用するための科目を提供します。また、社会の動きや国際情勢を見る目を養うための科目を提供します。

【高大接続分野】では、高校で学んできた教科科目から各学部教育への円滑な接続と、学部の専門分野を学ぶモチベーションを刺激することを目的とした、「大学であなたが伸びていくための科目」を提供します。文系学部では日本史・世界史を融合した近現代に関する基礎教養、および学部の専門分野で使う統計学の基礎を、理系学部では資格取得や国家試験に向けた化学・生物の基礎教養の演習等を取り入れた講義科目を提供します。

【キャリア教育分野】では、就業力を高めるための科目を体系的に提供します。1・2年次では自己理解や自己分析を通して自分自身のキャリアデザインを考えます。2年次以降は講演や連続講義を通して実践的就業力を向上させるための科目を提供します。KAC・KPCで内容が異なります。

【国際化推進分野】では、グローバルな視点から日本の社会、文化、政治、経済などについて考え、幅広い知識と教養を身につけることを目指します。世界の中の日本について、他者とのコミュニケーションを通じて、相互理解を推進し、協調、協働を醸成し、互いに地球市民としてアクティブに行動できる科目を提供します。

◎リベラルアーツ領域

リベラルアーツ領域は、【神戸学院教養分野】・【地域学分野】・【芸術分野】・【スポーツ科学分野】・【ポーアイ4大学・TKK共通教養分野】から成ります。芸術分野を除くそれぞれの分野の第1セメスターには入門科目を配置し、第2セメスター以降では少し専門的な科目を提供します。また、地域学、芸術、スポーツ科学分野は少人数で特定のテーマを掘り下げるための演習科目を提供します。演習科目では所属学部以外の学生とともに学ぶことができます。

【神戸学院教養分野】では、神戸学院大学が擁する文理10学部の専門性を生かし、これら10学部が連携し担当するさまざまな科目を提供します。それらを通して、学生が文化・社会・自然に関する広く豊かな知識に触れ、豊かな感受性をもって主体的に考える姿勢をはぐくみ、生涯学び続けるために必要な自立的学習基盤と社会人として備えるべき倫理観・責任感を醸成します。

【地域学分野】では、大学での専門的な学びを地域社会の活性化に結びつけるための科目を提供します。本学が立地する「神戸」に関して、歴史背景・自然環境・観光学という3つの窓を用意しています。1年次はそこから一つを選び系統的な地域理解を進めます。2年次では「地方自治体の政策」をテーマに、養われた知識の実用例を具体的に学び、地域学をさらに専門的に学ぶことを望む学生に対して、「地域学演習A/B」を提供します。

【芸術分野】では、教養、および情操教育として、音楽と美術に関連する科目を提供します。芸術面での教養、人間的な教養を身に付け、専門の学習に厚みをもたせるとともに、生涯にわたるそれらへの興味をはぐくみ、真に豊かな人間の形成を目指します。

【スポーツ科学分野】では、学びと実践を通じて生涯スポーツおよび健康づくりの方法や、運動習慣を身につけることができる科目を提供します。

【ポーアイ4大学・TKK共通教養分野】では、ポートアイランドにある4大学に共通する教養科目と、東北福祉大学・工学院大学と連携した科目を提供します。本学が神戸という地にあることを生かし、他大学と交流することで、より深い学びを得る機会を提供します（KPCのみ）。

共通教育科目 開講科目一覧

区分	学年	1年次				2年次					
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター					
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
リテラシー領域	分野	基礎英語 I	1	基礎英語 II	1	基礎英語 III	1	英語コミュニケーション I	1		
		実用英語 I	1	実用英語 II	1	英語コミュニケーション I	1	Speaking I	1		
		Basic Speaking I	1	Basic Speaking II	1	Speaking I	1	Reading I	1		
				Japanese Culture and Language in English	1			Reading I	1	Listening I	1
								Intensive Training I	1	Intensive Training I	1
						英会話 I (アドバンス)	1	英会話 II (アドバンス)	1	英会話 II (アドバンス)	1
						SE Oral Practice I	1	SE Oral Practice III	1	SE Oral Practice III	1
						SE Oral Practice II	1				
						SE Reading I	1	SE Reading III	1	SE Reading III	1
						SE Reading II	1	SE Understanding Culture & Language	1	SE Understanding Culture & Language	1
				初級ドイツ語 I a (総合的コミュニケーション)	1	初級ドイツ語 II a (総合的コミュニケーション)	1	中級ドイツ語 I A (総合的コミュニケーション)	1	中級ドイツ語 I A (総合的コミュニケーション)	1
				初級ドイツ語 I b (総合的コミュニケーション)	1	初級ドイツ語 II b (総合的コミュニケーション)	1	中級ドイツ語 I B (ICTによる学習)	1	中級ドイツ語 I B (ICTによる学習)	1
								ドイツ語検定対策 I A (独検対策)	1	ドイツ語検定対策 I A (独検対策)	1
								ドイツ語検定対策 I B (ヨーロッパの検定試験対策)	1	ドイツ語検定対策 I B (ヨーロッパの検定試験対策)	1
				初級フランス語 I a (総合的コミュニケーション)	1	初級フランス語 II a (総合的コミュニケーション)	1	中級フランス語 I A (総合的コミュニケーション)	1	中級フランス語 I A (総合的コミュニケーション)	1
				初級フランス語 I b (総合的コミュニケーション)	1	初級フランス語 II b (総合的コミュニケーション)	1	中級フランス語 I B (ICTによる学習)	1	中級フランス語 I B (ICTによる学習)	1
								フランス語検定対策 I A (仏検対策)	1	フランス語検定対策 I A (仏検対策)	1
								フランス語検定対策 I B (仏検対策)	1	フランス語検定対策 I B (仏検対策)	1
				初級中国語 I a (読解)	1	初級中国語 II a (読解)	1	中級中国語 I A (読解)	1	中級中国語 I A (読解)	1
				初級中国語 I b (会話)	1	初級中国語 II b (会話)	1	中級中国語 I B (会話)	1	中級中国語 I B (会話)	1
				中国語入門会話 I	1	中国語入門会話 II	1	中国語基礎会話 I	1	中国語基礎会話 I	1
								中国語検定対策 I a (中国語検定試験対策)	1	中国語検定対策 I a (中国語検定試験対策)	1
								中国語検定対策 I b (中国語検定試験対策)	1	中国語検定対策 I b (中国語検定試験対策)	1
				初級韓国語 I a (読解)	1	初級韓国語 II a (読解)	1	中級韓国語 I A (読解)	1	中級韓国語 I A (読解)	1
				初級韓国語 I b (会話)	1	初級韓国語 II b (会話)	1	中級韓国語 I B (会話)	1	中級韓国語 I B (会話)	1
								韓国語検定対策 I a (ハングル能力検定試験対策)	1	韓国語検定対策 I a (ハングル能力検定試験対策)	1
								韓国語検定対策 I b (ハングル能力検定試験対策)	1	韓国語検定対策 I b (ハングル能力検定試験対策)	1
				ロシア語入門	1	ロシア語基礎	1				
				日本語 A (資格試験対策)※2	1	日本語 G (新聞記事読解)※2	1				
				日本語 B (文章作成の基礎)※2	1	日本語 H (待遇表現)※2	1				
				日本語 C (ニュースの言葉)※2	1	日本語 I (小冊子読解)※2	1				
				日本語 D (現代用語)※2	1	日本語 J (文法や言語知識の運用)※2	1				
				日本語 E (文章読解の技術)※2	1	日本語 K (評論文読解)※2	1				
				日本語 F (レポートの作成)※2	1	日本語 L (長文作成)※2	1				
				データサイエンス基礎※8	2	データサイエンス※8	2				
				ICT実習 I	1	ICT実習 II	1				
		情報処理実習 A (文書作成)※3	1	情報処理実習 B (表計算)※3	1						
		情報処理実習 C (プレゼンテーション)	1	情報処理実習 D (データベース)	1						
		データ分析実習 I	1	データ分析実習 II	1	総合情報スキル実習 I	1	総合情報スキル実習 I	1		
		プログラミング実習 I	1	プログラミング実習 II	1						
		文章表現 I	2	文章表現 II	2						
		文章読解 I※4	2			文章読解 II	2	文章読解 II	2		
		時事・現代用語 I	2	時事・現代用語 II	2						
		数的思考 I (総論)	2	数的思考 II A (数的推理①)	2	数的思考 II B (判断推理)	2	数的思考 II B (判断推理)	2		
		近現代史概論 I	2	近現代史概論 II	2						
		生物学概論 I	2	生物学概論 II	2						
		化学概論 I	2	化学概論 II	2						
		数理科学基礎 I	2	数理科学基礎 II	2						
		キャリア教育分野	2	プロジェクト学習基礎	2	自己理解・将来展望	2	自己理解・将来展望	2		
						トップランナー特別講義※5	2	トップランナー特別講義※5	2		
		国際化推進分野※6	2								
		Japanese Politics and Economy	2								
		Japanese Culture in Historical Perspective	2	Issues in Japanese Society	2						

※1～※8) 次ページ下部の注釈を参照ください。

学年 区分	1年次				2年次			
	第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター			
領域	分野	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
リベラル アーツ 領域	神戸学 院教養 分野	人文科学入門A	2	欧米の社会と文化Ⅰ	2	欧米の社会と文化Ⅱ	2	
		人文科学入門B	2	アジア・アフリカの社会と文化Ⅰ	2	アジア・アフリカの社会と文化Ⅱ	2	
				日本の歴史と文化Ⅰ	2	日本の歴史と文化Ⅱ	2	
				こころの科学	2	現代社会と心理学	2	
				ジェンダー論	2			
		社会科学入門A	2	法と社会Ⅰ	2	法と社会Ⅱ	2	
		社会科学入門B	2	現代の政治	2	現代の国際関係	2	
		男女共同参画推進論	2	現代の経済Ⅰ	2	現代の経済Ⅱ	2	
				現代の経営Ⅰ	2	現代の経営Ⅱ	2	
				現代の社会(消費者教育)	2	情報と社会	2	
				現代社会と人権	2			
		健康科学入門	2	食の科学Ⅰ	2	食の科学Ⅱ	2	
				薬の科学Ⅰ	2	薬の科学Ⅱ	2	
				環境の科学Ⅰ	2	環境の科学Ⅱ	2	
			現代の医療と福祉Ⅰ	2	現代の医療と福祉Ⅱ	2		
			現代の障がい者問題	2				
	地域学 分野	地域学入門A(神戸学入門)	2	地域学講義ⅠA(兵庫学)	2	地域学講義ⅡA(社会貢献とボランティア)	2	
		地域学入門B(兵庫の自然地理)	2	地域学講義ⅠB(環境学)	2	地域学講義ⅡB(都市比較論)	2	
		地域学入門C(現代観光論)	2	地域学講義ⅠC(地方創生と観光)	2	地域学講義ⅡC(地方自治体の都市政策)	2	
	芸術 分野	西洋美術	2	造形論・色彩論	2			
		日本と東洋の美術	2	美術演習	2			
		西洋音楽	2	基本音楽理論	2			
		日本と世界の民族音楽	2	歌唱・合唱演習	2			
	スポーツ 科学分野	スポーツ科学入門	2	スポーツと健康A	2	スポーツと健康B	2	
		健康・体力づくり演習	2	スポーツ科学演習A	2	スポーツ科学演習B	2	
	T K K 共 通 教 養 分 野 ・ ポ ー ア イ 4 大 学 ※7	地域コミュニティ入門	2	防災・防犯ワークショップ	2	地域連携インターンシップⅠ	1	
		防災・防犯入門	2	健康づくり・生活支援ワークショップ	2			
		健康づくり・生活支援入門	2	防災・防犯指導論実習	1			
				健康・生活支援指導論実習	1			
				人間関係づくりワークショップ	2			
	社会貢献学入門(TKK科目)	2						

- 〈※1〉開講科目や履修対象科目は学部により異なりますので『履修の手引』で確認してください。
- 〈※2〉言語分野「日本語A」～「日本語L」は外国人留学生対象科目です。また、「日本語A」から「日本語F」と「日本語G」から「日本語L」の開講セメスターは、留学生の種別により異なります。
- 〈※3〉情報分野「情報処理実習A」、「情報処理実習B」は第1セメスターと第2セメスター同じ内容で開講します。
- 〈※4〉基礎思考分野「文章読解Ⅰ」は第1セメスターと第2セメスター同じ内容で開講します。
- 〈※5〉キャリア教育分野「トップランナー特別講義」はKPCに所属する学生のみ受講可能です。
- 〈※6〉国際化推進分野「Japanese Politics and Economy」は第1セメスターと第2セメスター同じ内容で開講します。「Japanese Politics and Economy」、「Japanese Culture in Historical Perspective」、「Issues in Japanese Society」は交換留学生対応科目です。
- 〈※7〉ポーアイ4大学・TKK共通教養分野はKPCに所属する学生のみ受講可能です。網掛け部分の科目の履修条件等に関しては『履修の手引』で確認してください。「社会貢献学入門」は東北福祉大学および工学院大学との連携科目です。遠隔授業形式にて行います。
- 〈※8〉遠隔授業(オンデマンド型)形式にて行います。

共通教育科目 各学部の卒業所要単位・履修条件など（2023年度入学生）

学部・学科		卒業所要単位	履修登録できる単位数			履修必修科目
法学部		24 単位以上 (言語分野 8 単位を含む)	専門教育科目とあわせて各学期 24 単位以内			設けない
経済学部		24 単位以上 (言語分野 8 単位を含む)		1 年次	2～4 年次	ICT 実習 I・II
			前期	12 単位以内	専門教育科目とあわせて 24 単位以内	
			後期	12 単位以内	専門教育科目とあわせて 24 単位以内	
経営学部	経営・会計	24 単位以上 (言語分野 8 単位を含む)		1 年次	2～4 年次	【経営・会計専攻】 ICT 実習 I・II
	データサイエンス		前期	12 単位以内	専門教育科目とあわせて 24 単位以内	
			後期	12 単位以内	専門教育科目とあわせて 24 単位以内	
人文学部		30 単位以上 (言語分野 12 単位を含む)	専門教育科目とあわせて各学期 24 単位以内 ただし、2 年次以上で、かつ履修科目を登録する時点における通算 GPA が 3.3 以上の者は、26 単位以内			基礎英語 I・II と実用英語 I・II、および初級フランス語 I ab・II ab、初級ドイツ語 I ab・II ab、初級中国語 I ab・II ab、初級韓国語 I ab・II ab から 2 言語（ロシア語を除く） ICT 実習 I・II 文章表現 I・II
心理学部		20 単位以上	専門教育科目とあわせて各学期 24 単位以内 ただし、2 年次以上において、履修科目を登録する時点における通算 GPA が 3.0 以上の者は、各学期 28 単位以内			設けない
現代社会学部	現代社会	24 単位以上 (言語分野 8 単位を含む)	専門教育科目とあわせて 1 年次は各学期 24 単位以内 2～4 年次は各学期 22 単位以内			ICT 実習 I・II
	社会防災					
グローバル・コミュニケーション学部		24 単位以上 (言語分野 8 単位を含む)	専門教育科目とあわせて各学期 24 単位以内			【英語コース】 初級中国語 I ab・II ab ICT 実習 I・II 自己発見・大学生活 プロジェクト学習基礎
						【中国語コース】 基礎英語 I・II 実用英語 I・II ICT 実習 I・II 自己発見・大学生活 プロジェクト学習基礎
						【日本語コース】 英語（基礎英語 I・II、実用英語 I・II）または中国語（初級中国語 I ab・II ab）から「第一言語（母語）」を除く言語を一つ選択 ICT 実習 I・II 自己発見・大学生活 プロジェクト学習基礎 Japanese Culture in Historical Perspective, Issues in Japanese Society
総合リハビリテーション学部	理学	14 単位以上	専門教育科目とあわせて 1 年次前期 26 単位以内、1 年次後期 23 単位以内、 2 年次以降は各学期 24 単位以内			基礎英語 I・II 実用英語 I・II
	作業	12 単位以上	専門教育科目とあわせて 1 年次前期 25 単位以内、1 年次後期 24 単位以内、 2 年次以降は各学期 24 単位以内			基礎英語 I・II 実用英語 I・II
	社会	10 単位以上	専門教育科目とあわせて 前期：24 単位以内 後期：25 単位以内			基礎英語 I・II 実用英語 I・II
栄養学部	管理栄養	10 単位以上	1 年次は専門教育科目とあわせて年間 50 単位以内 2 年次以降は専門教育科目とあわせて年間 55 単位以内			基礎英語 I・II 実用英語 I・II ICT 実習 I・II
	臨床検査		1 年次は専門教育科目とあわせて年間 55 単位以内 2 年次以降は専門教育科目とあわせて年間 50 単位以内			生物学概論 I・II 化学概論 I・II
薬学部		16 単位以上	1 年次は各学期 24 単位以内 2 年次以降は専門教育科目とあわせて年間 55 単位以内			設けない

卒業所要単位についての詳細は『履修の手引』をご覧ください。

各領域・分野の説明

リテラシー領域

言語分野

言語分野は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語から選択することができます。

英語

1年次		2年次以上	
前期	後期	前期	後期
基礎英語Ⅰ	基礎英語Ⅱ	基礎英語Ⅲ	基礎英語Ⅳ
実用英語Ⅰ	実用英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ
Basic SpeakingⅠ	Basic SpeakingⅡ	SpeakingⅠ	SpeakingⅡ
	Japanese Culture and Language in English	ReadingⅠ	ReadingⅡ
		ListeningⅠ	ListeningⅡ
		Intensive TrainingⅠ	Intensive TrainingⅡ
	英会話Ⅰ（アドバンス）	英会話Ⅱ（アドバンス）	英会話Ⅲ（アドバンス）

基礎英語Ⅰ～Ⅳ

「読む、書く、話す、聞く」という基礎英語能力をバランスよく伸ばすことを目指したベーシック科目です。

実用英語Ⅰ～Ⅱ

学部別の内容となっています。学部での学習に必要と考えられる英語技能を育てます。

Basic SpeakingⅠ～Ⅱ

より高い英語力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので英語力向上を強く希望し、積極的に授業に参加する姿勢が求められます。

Japanese Culture and Language in English

海外語学研修や留学を目指すための科目です。海外で生活送るために必要となる語学力向上を目指すとともに日本についてもプレゼンテーションなどを通して発信する力を磨くための科目です。

英語コミュニケーションⅠ～Ⅱ

基礎となる英語力をもとにコミュニケーション能力を育てる科目です。

SpeakingⅠ～Ⅱ

より高いスピーキング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。積極的に参加し、意見を述べることが求められます。

ReadingⅠ～Ⅱ

より高いリーディング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので、積極的に取り組む姿勢が求められます。

ListeningⅠ～Ⅱ

より高いリスニング能力を身に付けたいと考えている学生のための科目です。授業内外で多くの課題がでますので、積極的に取り組む姿勢が求められます。

Intensive TrainingⅠ～Ⅱ

英語力を客観的に判断する資格試験に対応する科目です。資格対策は容易な内容ではありませんので、すでにある程度の英語力（英検準2級合格レベル）の英語力がある人を対象とします。

英会話Ⅰ～Ⅲ（アドバンス）

上級者向けの英会話クラスです。しっかりとリスニング・スピーキングの基礎を磨き、コミュニケーションで応用できるようにするための科目です。

履修系統図

	1年次		2年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
基礎英語 4 技能	<u>基礎英語 I</u> (注1)	基礎英語 II	基礎英語 III (注3)	基礎英語 IV
技能別学習	<u>実用英語 I</u> (注2)	実用英語 II	英語コミュニケーション I (注3)	英語コミュニケーション II
会話・表現(1)	Basic Speaking I	Basic Speaking II	Speaking I	Speaking II
異文化理解		Japanese Culture and Language in English		
読解			Reading I	Reading II
聴解			Listening I	Listening II
資格・検定試験対策			<u>Intensive Training I</u>	<u>Intensive Training II</u>
会話・表現(2)		英会話 I (アドバンス) (注4)	英会話 II (アドバンス)	英会話 III (アドバンス)

注1：薬学部以外一括登録。習熟度別クラス（栄養学部以外）。
薬学部は選択制。

注2：薬学部以外一括登録。習熟度別クラス（栄養学部以外）。
薬学部は選択制。

注3：人文学部は一括登録。グローバル・コミュニケーション学部（英語コース以外）は指定のクラスを履修すること。それ以外の学部生は自由選択制。

注4：英会話 I～III（アドバンス）は教職科目。

注5：全ての科目で定員に制限がある。希望者が多い場合は抽選で履修者選考を行う。

注6：グローバル・コミュニケーション学部英語コースの学生は共通教育英語科目に関しては学部のガイドラインに従うこと。

凡例	 一括登録・クラス指定	-----> 先行科目の履修を推奨します
	色なし 個別登録・クラス指定なし（一部クラス指定あり）	→ ペア科目での履修
	<u>二重下線</u> 統一定期試験	
	下線なし 個別試験	

〈神戸学院カレッジ (SE)〉

	1年次		2年次		3年次		4年次
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester
文法・読解		SE Reading I SE Reading II	SE Reading III	SE Reading IV	SE Practical English I	SE Practical English II	
会話・表現(1)		SE Oral Practice I SE Oral Practice II	SE Oral Practice III	SE Oral Practice IV	SE Communication I	SE Communication II	
会話・表現(2)				SE Presentation Skills			
異文化理解			SE Understanding Culture and Language				
総合							SE Seminar

注1：神戸学院カレッジは特別選抜クラスですので、許可された学生のみ受講できます。

言語分野

ドイツ語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級ドイツ語 I a	初級ドイツ語 II a	中級ドイツ語 I A	中級ドイツ語 II A	上級ドイツ語 I	上級ドイツ語 II
初級ドイツ語 I b	初級ドイツ語 II b	中級ドイツ語 I B	中級ドイツ語 II B		
		ドイツ語検定対策 I A	ドイツ語検定対策 II A		
		ドイツ語検定対策 I B	ドイツ語検定対策 II B		

初級ドイツ語 I a・I b
初級ドイツ語 II a・II b
(総合的コミュニケーション)

a科目とb科目は、教員2人が一冊の教科書を使って、リレー式に授業を進めます。ただし、定期試験の際には、a科目では文法と読解の能力を、b科目では、「話す・聴く・(読み手を想定して)書く」能力を測ります。CEFR(『ヨーロッパ言語共通参照枠』)A1レベルを到達目標として、学んでいきましょう。また、後期の第2セメスターになれば、「独検」5級の合格圏内に入ります。

中級ドイツ語 I A・II A
(総合的コミュニケーション)

A科目は1年次と同じ「話す、聴く、(読み手を想定して)書く、読む」という総合的なコミュニケーション能力を伸ばします。一方、B科目では、それらの能力を獲得するために、コンピューターやスマートフォンを使った学習が加わります。CEFR(『ヨーロッパ言語共通参照枠』)A1プラス・レベルを到達目標として、学んでいきましょう。前期の第3セメスターでは、「独検」4級、後期の第4セメスターになれば、「独検」3級の合格圏内に入ります。

中級ドイツ語 I B・II B
(ICTによる学習)

ドイツ語検定対策 I A・II A
ドイツ語検定対策 I B・II B

A科目、B科目とも、検定試験の受験を想定した対策コースです。ただし、A科目は前期で「独検」の4級を、後期で「独検」3級レベルに合わせた授業内容・授業方法となります。一方、B科目ではヨーロッパの検定試験、たとえばドイツ文化センターのStart DeutschのCEFR(『ヨーロッパ言語共通参照枠』)A1プラス・レベルに合わせた授業内容・授業方法となります。将来の就職活動に有効な資格を取りましょう。なお、教科書はA科目では「独検」5級・4級・3級に対応したものをを使うのに対して、B科目では、1年次に使った教科書の続編(前半部分)を使います。

上級ドイツ語 I・II
(総合的コミュニケーション・時事)

教科書は、1年次に使った教科書の続編(後半部分)を使用します。「話す・聴く・(読み手を想定して)書く・読む」という総合的なコミュニケーション能力をさらに伸ばしていきますが、時事問題にも目を向けましょう。CEFR(『ヨーロッパ言語共通参照枠』)A2レベルを到達目標として、学んでいきましょう。前期の第5セメスターから、後期の第6セメスターに進めば、「独検」3級から2級レベルの受験も視野に入ります。

履修系統図

	1年次		2年次		3年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
総合的コミュニケーション	初級ドイツ語 I a → 初級ドイツ語 II a		→ 中級ドイツ語 I A → 中級ドイツ語 II A		→ 上級ドイツ語 I → 上級ドイツ語 II	
ICTによる学習	初級ドイツ語 I b → 初級ドイツ語 II b		→ 中級ドイツ語 I B → 中級ドイツ語 II B			
資格・検定試験対策			→ ドイツ語検定対策 I A → ドイツ語検定対策 II A			
			→ ドイツ語検定対策 I B → ドイツ語検定対策 II B			

- 凡例
- 一括登録・クラス指定
 - 色なし 個別登録・クラス指定なし(一部クラス指定あり)
 - 下線なし 個別試験
 - 任意の科目を選択可能
 - > 先行科目の履修を推奨します

フランス語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級フランス語 I a	初級フランス語 II a	中級フランス語 I A	中級フランス語 II A	上級フランス語 I	上級フランス語 II
初級フランス語 I b	初級フランス語 II b	中級フランス語 I B	中級フランス語 II B		
		フランス語検定対策 I A	フランス語検定対策 II A		
		フランス語検定対策 I B	フランス語検定対策 II B		

初級フランス語 I a・I b 初級フランス語 II a・II b (総合的コミュニケーション)

a 科目と b 科目は、教員 2 人が一冊の教科書を使って、リレー式に授業を進めます。ただし、定期試験の際には、a 科目では文法と読解の能力を、b 科目では、「話す・聴く・(読み手を想定して) 書く」能力を測ります。CEFR (『ヨーロッパ言語共通参照枠』) A1・1 レベルを到達目標として、学んでいきましょう。また、後期の第 2 セメスターになれば、「仏検」5 級の合格圏内に入ります。

中級フランス語 I A・II A (総合的コミュニケーション)

A 科目は 1 年次と同じ「話す・聴く、(読み手を想定して) 書く、読む」という総合的なコミュニケーション能力を伸ばします。一方、B 科目では、それらの能力を獲得するために、コンピューターやスマートフォンを使った学習が加わります。前期の第 3 セメスターでは、「仏検」4 級、後期の第 4 セメスターになれば、「仏検」3 級の合格圏内に入ります。

中級フランス語 I B・II B (ICT による学習)

フランス語検定対策 I A・II A フランス語検定対策 I B・II B

A 科目、B 科目とも、検定試験の受験を想定した対策コースです。前期では「仏検」の 4 級を、後期では「仏検」3 級に合わせた授業内容・授業方法となります。ただし、A 科目では、基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を扱います。一方、B 科目では基本的にテキストの語彙と聴き取り問題についての説明と練習問題を扱います。将来の就職活動に有効な資格を取りましょう。なお、教科書は A・B 科目とも「仏検」4 級・3 級のレベルに対応したものを使います。

上級フランス語 I・II (総合的コミュニケーション・時事)

「話す・聴く、(読み手を想定して) 書く、読む」という総合的なコミュニケーションを図るのに加えて、時事問題にも目を向けましょう。前期の第 5 セメスターから、後期の第 6 セメスターに進めば、「仏検」3 級から準 2 級の受験も視野に入ります。

履修系統図

	1年次		2年次		3年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
総合的コミュニケーション	初級フランス語 I a → 初級フランス語 II a	→ 初級フランス語 II b	→ 中級フランス語 I A → 中級フランス語 II A	→	→ 上級フランス語 I → 上級フランス語 II	
ICT による学習			→ 中級フランス語 I B → 中級フランス語 II B	→		
資格・検定試験対策			→ フランス語検定対策 I A → フランス語検定対策 II A	→		
			→ フランス語検定対策 I B → フランス語検定対策 II B	→		

- 凡例
- 一括登録・クラス指定
 - 色なし 個別登録・クラス指定なし (一部クラス指定あり)
 - 下線なし 個別試験
 - 任意の科目を選択可能
 - > 先行科目の履修を推奨します

言語分野

中国語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級中国語 I a (読解)	初級中国語 II a (読解)	中級中国語 I A (読解)	中級中国語 II A (読解)	上級中国語 I A (読解)	上級中国語 II A (読解)
初級中国語 I b (会話)	初級中国語 II b (会話)	中級中国語 I B (会話)	中級中国語 II B (会話)	上級中国語 I B (会話)	上級中国語 II B (会話)
				上級中国語 I C (時事・総合)	上級中国語 II C (時事・総合)
中国語入門会話 I	中国語入門会話 II	中国語基礎会話 I	中国語基礎会話 II		
		中国語検定対策 I a	中国語検定対策 II a		
		中国語検定対策 I b	中国語検定対策 II b		

初級中国語 I a・II a (読解) 初級中国語 I b・II b (会話)

中国語の基礎を学びます。発音を身に付け、漢字を覚え、基本的な文法を習得することが主な学修内容です。I a・II a では読解を通して、I b・II b では会話を通してこれらを学びます。I a・II a と I b・II b とでは教科書も異なります。偏りなく基礎を身につけるため、一部の学部を除き I a・I b・II a・II b は全て一括して履修しなければなりません。ただし、再履修クラスはそれぞれを個別に履修することが可能です。

中級中国語 I A・II A (読解)

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。識字能力を高めながら読解力を鍛えます。I と II は連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

中級中国語 I B・II B (会話)

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。聴き・話す訓練を通して会話力を向上させます。I と II は連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

上級中国語 I A・II A (読解)

中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。中国語を母語とする一般の人々が読む平易な文章を辞書を頼りに読むことができるようになることを学修の目標とします。I と II は連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、I と II をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

上級中国語 I B・II B (会話)

中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。一定の話題をめぐって中国語で簡単な会話ができるようになることを学修の目標とします。I と II は連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、I と II をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

上級中国語 I C・II C (時事・総合)

中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。ナマの中国語ラジオニュースを材料に中国のイマを知ることを学修の目標とします。毎回最新のニュースを扱うため I と II の間に難易度の差はありません。I と II はそれぞれ個別に履修することができます。

中国語入門会話Ⅰ・Ⅱ

初級中国語Ⅰb・Ⅱbの内容を補完しながら基礎的会話力を身につけることに特化した科目です。初級中国語を履修しながら会話力をさらに鍛えたい人はもちろん、初級中国語を履修せず他の言語の初級科目を履修している人もこの科目を履修することができます。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。ⅠとⅡは継続して履修しなければなりません。

中国語基礎会話Ⅰ・Ⅱ

初級中国語や中国語入門会話をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。授業は中国語を母語とする先生により、可能な限り日本語を介さずに行なわれます。ⅠとⅡは継続して履修しなければなりません。

中国語検定対策Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb

初級中国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。中国語を初めて学ぶ人は対象としません。検定試験に合格することのできる学力を偏りなく十分に身につけるためaとbはペアで履修しなければなりません。ⅠとⅡはそれぞれを個別に履修してもかまいません。Ⅰは6月に行なわれる中国語検定試験で4級に合格することが、Ⅱは11月の中国語検定試験で3級に合格することが目標です。Ⅱでは、11月の中国語検定試験が終了したあとはHSK4級の合格に向けた学習へと内容が切り替わります。この科目の履修者は、中国語検定試験で合格した級により成績評価において一定の評点が与えられます。

履修系統図

	1年次		2年次		3年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
読解	初級中国語Ⅰa (読解)	初級中国語Ⅱa (読解)	中級中国語ⅠA (読解)	中級中国語ⅡA (読解)	上級中国語ⅠA (読解)	上級中国語ⅡA (読解)
会話	初級中国語Ⅰb (会話)	初級中国語Ⅱb (会話)	中級中国語ⅠB (会話)	中級中国語ⅡB (会話)	上級中国語ⅠB (会話)	上級中国語ⅡB (会話)
時事・総合					上級中国語ⅠC (時事・総合)	上級中国語ⅡC (時事・総合)
会話 (注1)	中国語 入門会話Ⅰ	中国語 入門会話Ⅱ	中国語 基礎会話Ⅰ	中国語 基礎会話Ⅱ		
資格・検定 試験対策 (注2)			中国語 検定対策Ⅰa 中国語 検定対策Ⅰb	中国語 検定対策Ⅱa 中国語 検定対策Ⅱb		
資格・検定試験 との対応関係	中検準4級 HSK 1級~2級	中検準4級~4級 HSK 3級	中検4級 HSK 3級~4級	中検4級~3級 HSK 3級~4級	中検3級 HSK 4級	中検3級 HSK 4級

- 凡例
- 一括登録（総合リハビリテーション学部除く）・クラス指定
 - 一括登録・クラス指定なし
 - 色なし 個別登録・クラス指定なし
 - 二重下線 統一定期試験
 - 下線なし 個別試験

同じ列にある科目は全て同時に履修することが可能。

第3 Semester以降の科目を履修するにはそれ以前の科目を学修したと同等の学力が必要；初心者に対する配慮はしない。

注1：中国語入門会話・基礎会話は中国語で初歩的な会話ができるようになることに特化した科目；初級・中級・上級中国語および中国語検定対策とは別系統。

注2：中国語検定対策はa・bを同時に履修することが必須；中国語検定試験（中検）の合格級を成績に反映させる；定期試験はa・b統一で一回のみ。

言語分野

韓国語

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級韓国語 I a (読解)	初級韓国語 II a (読解)	中級韓国語 I A (読解)	中級韓国語 II A (読解)		
初級韓国語 I b (会話)	初級韓国語 II b (会話)	中級韓国語 I B (会話)	中級韓国語 II B (会話)		
				上級韓国語 I (時事・総合)	上級韓国語 II (時事・総合)
		韓国語検定対策 I a	韓国語検定対策 II a		
		韓国語検定対策 I b	韓国語検定対策 II b		

初級韓国語 I a・II a (読解) 初級韓国語 I b・II b (会話)

韓国語の基礎を学びます。発音を身に付け、ハングルを覚え、基本的な文法を習得することが主な学修内容です。I a・II aでは読解を通して、I b・II bでは会話を通してこれらを学びます。偏りなく基礎を身につけるため、I a・I b・II a・II bは全て一括して履修しなければなりません。ただし、再履修クラスはそれぞれを個別に履修することが可能です。

中級韓国語 I A・II A (読解)

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。基本的な文法を仕上げるとともに読解力を鍛えます。IとIIは連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

中級韓国語 I B・II B (会話)

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。聴き・話す訓練を通して日常会話に必要な基本表現を身に付けます。IとIIは連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、それぞれを個別に履修してもかまいません。

上級韓国語 I・II (時事・総合)

中級韓国語や韓国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。韓国や朝鮮のイマを知ることを学修の目標とします。IとIIはそれぞれ個別に履修することができます。

韓国語検定対策 I a・I b・II a・II b

初級韓国語をすでに履修した、またはそれと同等以上の基礎力をもつ人を対象とした科目です。韓国語を初めて学ぶ人は対象としません。検定試験に合格することのできる学力を偏りなく十分に身につけるため a と b はペアで履修しなければなりません。I と II はそれぞれを個別に履修してもかまいません。I は 6 月に行なわれる「ハングル」能力検定試験で 4 級に合格することが、II は 11 月の「ハングル」能力検定試験で 3 級に合格することが目標です。この科目の履修者は、「ハングル」能力検定試験で合格した級により成績評価において一定の評点が与えられます。

履修系統図

	1年次		2年次		3・4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
読解	初級韓国語 I a (読解)	初級韓国語 II a (読解)	中級韓国語 I A (読解)	中級韓国語 II A (読解)		
会話	初級韓国語 I b (会話)	初級韓国語 II b (会話)	中級韓国語 I B (会話)	中級韓国語 II B (会話)		
時事・総合					上級韓国語 I (時事・総合)	上級韓国語 II (時事・総合)
資格・検定試験対策 (注)			韓国語 検定対策 I a 韓国語 検定対策 I b	韓国語 検定対策 II a 韓国語 検定対策 II b		
資格・検定試験との対応関係	ハン検5級 TOPIK 1級	ハン検5級～4級 TOPIK 1級～2級	ハン検4級～3級 TOPIK 2級～3級	ハン検4級～3級 TOPIK 2級～3級	ハン検3級 TOPIK 3級	ハン検3級 TOPIK 3級

凡例

 	一括登録・クラス指定
 	一括登録・クラス指定なし
色なし	個別登録・クラス指定なし
<u>二重下線</u>	統一定期試験
下線なし	個別試験

同じ列にある科目は全て同時に履修することが可能。

第3セメスター以降の科目を履修するにはそれ以前の科目を学修したと同等の学力が必要；初心者に対する配慮はしない。

注：韓国語検定対策は a・b を同時に履修することが必須；「ハングル」能力検定試験（ハン検）の合格級を成績に反映させる；定期試験は a・b 統一で一回のみ。

ロシア語

1年次	
前期	後期
ロシア語入門	ロシア語基礎

ロシア語入門 ロシアとのコミュニケーションの基本となる言語コミュニケーションの基礎を固めるため、初歩的なコミュニケーション技術の習得およびロシア文化事情についての理解を深めます。

ロシア語基礎 ロシアとのコミュニケーションの基本となる言語コミュニケーションの基礎を固めるため、ロシア語入門の学修内容の理解を前提に、初歩的なコミュニケーション技術の習得およびロシア文化事情についての理解を一層深めます。

履修系統図

1年次	
第1セメスター	第2セメスター
ロシア語入門	→ ロシア語基礎

凡例 → 任意の科目を選択可能

情報分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
データサイエンス基礎	データサイエンス		
ICT 実習 I	ICT 実習 II		
情報処理実習 A ※ (文書作成)			
	情報処理実習 B ※ (表計算)		
情報処理実習 C (プレゼンテーション)	情報処理実習 D (データベース)		
データ分析実習 I	データ分析実習 II	総合情報スキル実習 I	総合情報スキル実習 II
プログラミング実習 I	プログラミング実習 II		

※情報処理実習 A、情報処理実習 Bはそれぞれ第1セメスターと第2セメスターで同じ内容の実習を開講。

情報分野では、ワードプロセッシング、表計算など現代社会が要求するコンピュータリテラシーとともに、情報倫理、データ分析やプログラミングについても学び、情報リテラシーの育成を目的とした教育プログラムを提供します。

情報分野は、(1)データサイエンス、(2)ICT 実習、(3)ビジネスアプリケーション、(4)問題解決、の4つのグループから構成されます。それぞれのグループについて簡単に説明します。

(1) データサイエンス

社会にあふれる膨大なデータは、私たちに何を語るのでしょうか。データサイエンス科目では、データの利活用、グラフの見方、ソーシャルネットワークやビッグデータの分析事例など、多様な視点からデータの潜在的価値について考えます。データから情報を引き出し、新たな価値を生み出すための教養を育みます。

(2) ICT 実習

充実した大学生活をおくることができるよう、また、社会人として要求されるコンピュータリテラシーの基礎スキルを育成します。基礎スキルを身につけることで、社会に渦巻くデータの収集や整理、そこから情報(価値)を創出する第1歩を踏み出すことができます。現代社会が要請する、データサイエンスを支える縁の下の力持ちとなる科目です。

(3) ビジネスアプリケーション

ICT 実習 I・IIを履修済み、もしくは基礎的なコンピュータリテラシー習得者が、さらに実践的なスキルを身につける科目群です。各科目の内容は、文章作成、表計算、プレゼンテーション、データベースとなります。

(4) 問題解決

ソフトウェア使用方法の習熟が目的ではなく、論理的思考の鍛錬、およびソフトウェアの活用方法について学ぶことを目的とします。初学者向けのプログラミング科目やデータ分析科目を設定し、論理的な思考の世界へといざないます。

以下に、各グループの科目担当者からのメッセージを伝えます。

データサイエンス担当者	ICT 実習担当者
<p>社会の変化が激しい現代において、状況を把握し、適切な意思決定を下すためには、データを読み取り、活用する力が必要となります。データサイエンスは、文系・理系の枠組みを超え、すべての大学生に必要なアカデミックスキルとして、社会から必要とされる教養です。自らの人間力を高め、他者と理解を深める技術として、データサイエンス科目を履修することを期待します。</p>	<p>実際に社会に出て求められるのは、スマートフォンの操作よりも PC での操作、情報に関する幅広い知識とタイピング能力です。スマホと PC の操作の間には大きな差があることを念頭におき、卒業後のことも見据えて、仕事でも活かせる実践的なスキルの習得を目指してください。まずはタッチタイピングの習得からスタートです！</p>
ビジネスアプリケーション担当者	問題解決担当者
<p>情報科目担当者として毎年フレッシュなみなさんとお会いできることを大変うれしく思います。履修学生はパソコンの習熟度、使用頻度はさまざまですが、全員が授業目標に向かって頑張っています。Word、Excel 等のアプリケーションソフトは今や大学生活、社会人生活では必須といわれるツールです。楽しみながら、積極的に学びましょう！</p>	<p>高校までは、知識を習得するインプット型の学びに重きがおかれていました。大学では、知識の習得はもとより、論理的な思考に基づき、自らの意見を発信するアウトプット型の学びが要求されます。コンピュータ上のアプリケーションソフトを活用しながら、論理的な思考力の礎を築いてみませんか。みなさんの履修を待っています。</p>

履修系統図

	1 年次		2 年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
データサイエンス	データサイエンス基礎 (注1)	データサイエンス (注1)		
ICT 実習	ICT 実習 I (注2)	ICT 実習 II (注2)		
ビジネス アプリケーション	情報処理実習 A (注3)	情報処理実習 A (注3)		
	情報処理実習 B (注3)	情報処理実習 B (注3)		
	情報処理実習 C	情報処理実習 D	総合情報スキル実習 I	総合情報スキル実習 II
問題解決	プログラミング実習 I	プログラミング実習 II		
	データ分析実習 I	データ分析実習 II		

- 凡例
- 一括登録・クラス指定 (一部学部除く)
 - 色なし 個別登録・クラス指定なし (一部クラス指定あり)
 - 任意の科目を選択可能
 - 先行科目の履修を推奨します

注1：オンデマンド型の遠隔授業として開講。
 注2：所属学部により、学習内容が異なります。
 注3：連続するセメスターで、同内容の実習が実施されます。ただし、同科目の単位修得後別セメスターで履修はできません。

基礎思考分野

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
文章表現Ⅰ	文章表現Ⅱ				
文章読解Ⅰ※		文章読解Ⅱ	文章読解Ⅲ	文章読解Ⅳ	文章読解Ⅴ
数的思考Ⅰ	数的思考ⅡA		数的思考ⅢA		数的思考Ⅳ
		数的思考ⅡB		数的思考ⅢB	
時事・現代用語Ⅰ	時事・現代用語Ⅱ			時事・現代用語Ⅲ	

※「文章読解Ⅰ」は前後期とも同じ科目が開講されます。

文章表現Ⅰ・Ⅱ

コミュニケーションのための文章表現を学ぶとともに、大学でのレポートをはじめ、自分が学んだこと、考えたことをわかりやすく読み手に伝えるための、書き手としての姿勢と基本的な書き方を学びます。

文章読解Ⅰ～Ⅴ

Ⅰ～Ⅲでは文章から正確に情報を読み取り、自分の学びにつなげていくための練習をし、Ⅳ・Ⅴでは、就職試験で問われる文章問題の対策も行います。

数的思考Ⅰ

数を使用して考えることの基礎を学びます。パズル問題や図形の中に使われている数を認識して考えることにより、思考力を養っていきます。

数的思考Ⅱ・Ⅲ

Aでは数的推理分野、Bでは判断推理分野や資料解釈を学びます。各分野の基礎から応用まで深く学ぶことにより思考力をつけるとともに、公務員試験等の就職試験の対策も行います。

数的思考Ⅳ

数的思考Ⅰ～Ⅲで学んだことを総合的に使用します。新作の問題でどのようにⅠ～Ⅲで学んだ思考力を使用できるかを考えていきます。

時事・現代用語Ⅰ

私たちのまわりの社会、日本、世界で、今いったい何が起きているのか？ テレビや新聞、インターネット等で報道されるニュースを理解するために、必要な基礎知識を身につけることができる。

時事・現代用語Ⅱ

世界と日本が直面している問題について、ニュースを読み解き考えるために、必要な知識を身につけ、自らのスタンスを構築し、ディスカッションができるようになる。

時事・現代用語Ⅲ

世界と日本の現状と課題について、ディスカッションを通して、自分のスタンスを見つめ直し、グローバル社会の一員として行動できるようになる。

履修系統図 (注1)

	1年次		2年次		3年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
文章表現・ 文章読解	文章表現 I (注2)	→ 文章表現 II (注2)				
	文章読解 I (注3)		→ 文章読解 II	→ 文章読解 III	→ 文章読解 IV	→ 文章読解 V
数的思考	数的思考 I	→ 数的思考 II A	→ 数的思考 III A		→ 数的思考 IV	
		→ 数的思考 II B	→ 数的思考 III B		→	
時事・現代用語	時事・現代用語 I	→ 時事・現代用語 II	→		→ 時事・現代用語 III	

凡例 → 任意の科目を選択可能

注1：履修人数制限がある科目もあります。

注2：「文章表現 I・II」は履修必修になっている学部もあります。

注3：「文章読解 I」は前後期とも同じ科目が開講されます。

高大接続分野

1年次	
前期	後期
近現代史概論Ⅰ	近現代史概論Ⅱ
生物学概論Ⅰ	生物学概論Ⅱ
化学概論Ⅰ	化学概論Ⅱ
数理科学基礎Ⅰ	数理科学基礎Ⅱ

高校で日本史しか学んでいないから世界史に関する基礎知識を得たい、薬剤師や臨床検査技師の試験を目指して化学・生物の基礎力をつけたい、経済学や心理学でデータ分析の基礎力をつけたいなど、目的を持って履修することを勧めます。

近現代史概論Ⅰ

地歴科目の学修が充分ではない学生を対象とし、各学部の重視する領域や分野について、近現代を中心に欧米史からテーマを選定して講義形式で授業を行います。学部の専門的な学習に備えた知識基盤を構築し、学部の専門分野に対するモチベーションのアップを図ります。

近現代史概論Ⅱ

地歴科目の学修が充分ではない学生を対象とし、各学部の重視する領域や分野について、近現代を中心に日本とアジア史からテーマを選定して講義形式で授業を行います。学部の専門的な学習に備えた知識基盤を構築し、学部の専門分野に対するモチベーションのアップを図ります。

生物学概論Ⅰ

リメディアル教育の観点から、理系学部で学習する専門科目の基礎を築くとともに、専門科目に直接つながる事項については応用的な内容をも取り入れ、専門科目の学習に留まらず研究への橋渡しをすることを目的に開講します。生物学概論Ⅰでは、高校で生物を得意としてこなかった学生向けに、物理・化学・地学と関連付けて生物学全般を演習を含めて基礎から系統的に学習・習得することを目標とします。

生物学概論Ⅱ

リメディアル教育の観点から、理系学部で学習する専門科目につながる分野や事項について、生物学の基礎的知識を整理し、生化学、微生物学などを中心に、専門科目の学習や研究への橋渡しをすることを目的に開講します。生物学概論Ⅱでは、生物学の基礎を踏まえて、高校で学習してきた物理・化学・地学と関連付けて、応用につながる生物学を演習を含めて学習・習得するとともに、ディスカッションとレポートを取り入れ、プレゼンテーションを通して自身の生物学に関する考えを発表できることを目標とします。

化学概論Ⅰ

それぞれの学部での専門的な知識を深めていく上で必要な化学的な基礎知識の習得を目的とします。高校において化学を学んで来なかったもの、「化学基礎」を学んだもの、「化学」を学んだものと多様であるが、化学を理解する上で必要となる基礎的で幅広い化学の知識を習得させます。

動画や実験教材を活用し、知識の習得だけでなく、「なぜ」「どうして」という化学の本質について、主体的に学べるように工夫します。また、演習の時間を設け、知識や考え方の定着を図ります。

化学概論Ⅱ

それぞれの学部での専門的な知識を深めていく上で必要な化学的な応用力の習得を目的とします。高校で学んだ化学の基礎的な内容を前提とし、化学平衡や反応速度、食品などの日常生活に利用されている有機化合物のしくみなど、化学的知識を活用して主体的に学び、考察し、判断し、発信できる力の習得を図ります。演習の時間を設け、分析・考察する力の定着を図るだけでなく、考察をまとめ、発表・評価させる機会を設けます。

数理学基礎Ⅰ

学士教育では、数学Ⅰや数学Ⅱなど高等学校で習得した数学の基礎知識を前提とした少なくない専門科目が開講されています。各分野の専門家として求められる数学知識の習得を目的とし、次の方法により専門科目、および各分野の研究へとつなげていきます。高等学校で習得すべき数学知識の体系を理解し、専門教育上必要とされる知識との関係性について理解します。また、基礎的な演習問題を通し、論理的思考力をはぐくみながら、数学に対する興味を育成します。

数理学基礎Ⅱ

事象を数学的に考察し表現する能力や、数学を積極的に活用する態度は、数学を基礎とした専門科目を理解する上で、重要な基盤となります。また、単に数学問題を解く技術的な知識の習得に固執することなく、数学を学習する必要性について考えます。また、数値データが容易に手に入る時代となり、大量のデータから意味のある情報を引き出し、意思決定へとつなげるデータ活用力が求められています。このことから、データ分析を含む基礎統計とともに、きたる知識基盤社会における必要不可欠な数学素養もはぐくむものとしします。

履修系統図

高大接続分野の科目は、Ⅰ・Ⅱで講義内容は単元分野が異なりますので、第1 Semester・第2 Semesterと継続履修することを勧めます（シラバスを読んで、どちらか一つを選択履修することもかまいません）。

履修を勧める学生の例		1年次	
		第1 Semester	第2 Semester
入試を世界史または日本史で受験しなかった	大学で「暗記ではない歴史」を学び、現代の国際問題の歴史的背景を知りたいと思う。	近現代史概論Ⅰ	→ 近現代史概論Ⅱ
高校で世界史または日本史があまり得意ではなかった			
理系学部の入試を化学または生物で受験しなかった	国家試験や資格試験の合格を目指して、化学・生物の基礎力をつけようと思う。	化学概論Ⅰ	→ 化学概論Ⅱ
理系学部の学生で高校の化学または生物があまり得意ではなかった		生物学概論Ⅰ	→ 生物学概論Ⅱ
高校では文系だったので数学をあまり学んでこなかった	学部の専門教育に必要な「統計学」の基礎を身につけたい。	数理学基礎Ⅰ	→ 数理学基礎Ⅱ

凡例 → 任意の科目を選択可能

キャリア教育分野

1年次		2年次		3年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
自己発見・大学生活	プロジェクト学習基礎	自己理解・将来展望			
		トップランナー特別講義		産業界等連携講義	

初年次より社会との接点を持ち、課題解決型学習（PBL）やアクティブラーニングの教育手法を多用し、主体的に学習する力を身につけます。

自己発見・大学生活

これからの大学生活に向けてマインドセットを行い、大学生活をグループでデザインをしていきます。

プロジェクト学習基礎

神戸市の優良企業の担当者に、現在企業が抱える課題を提示してもらい、チームでプロジェクトを組み、解決を目指します。

自己理解・将来展望

グループワークを通して自分の将来について考えます。

2年次より、実際に社会で活躍している人の話を連続講義の形式で聞くことにより、将来について考えます。

トップランナー特別講義

神戸市の企業の社長、団体の代表、行政の長のような組織のトップの方に登壇していただき、トップランナーのポリシーや困難の乗り越え方についての話を聞き、今後の生き方について考えます。

産業界等連携講義

神戸学院大学の同窓生や企業人事の話を聞き、職業観や大学生活について考えます。

履修系統図

1年次		2年次		3年次	
第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester
自己発見・大学生活	プロジェクト学習基礎	自己理解・将来展望			
		トップランナー特別講義		産業界等連携講義	

凡例 → 任意の科目を選択可能

国際化推進分野

1年次	
前期	後期
Japanese Politics and Economy ※	Japanese Politics and Economy ※
Japanese Culture in Historical Perspective	Issues in Japanese Society

※「Japanese Politics and Economy」は前後期とも同じ科目が開講されます。

Japanese Politics and Economy

グローバル社会における日本の政治と経済について、英語でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、21世紀の世界と日本について考察できるようになる。

Japanese Culture in Historical Perspective

日本の文化を、歴史的な流れとともに学び、現代の日本の文化について、自分の経験や意見を述べながら、考察することにより、理解を深めることができるようになる。

Issues in Japanese Society

現代日本の多様かつ動的な社会・文化の状況を理解し、自分の経験やバックグラウンドをもとに、グローバルな視点から日本の今について考え、発言できるようになる。

履修系統図

1年次	
第1 Semester	第2 Semester
Japanese Politics and Economy (注1)	Japanese Politics and Economy (注1)
Japanese Culture in Historical Perspective	Issues in Japanese Society

注1：「Japanese Politics and Economy」は前後期とも同じ科目が開講されます。

リベラルアーツ領域

神戸学院教養分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
人文科学入門A	欧米の社会と文化Ⅰ	欧米の社会と文化Ⅱ	
人文科学入門B	アジア・アフリカの社会と文化Ⅰ	アジア・アフリカの社会と文化Ⅱ	
	日本の歴史と文化Ⅰ	日本の歴史と文化Ⅱ	
	こころの科学	現代社会と心理学	
	ジェンダー論		
社会科学入門A	法と社会Ⅰ	法と社会Ⅱ	
社会科学入門B	現代の政治	現代の国際関係	
男女共同参画推進論	現代の経済Ⅰ	現代の経済Ⅱ	
	現代の経営Ⅰ	現代の経営Ⅱ	
	現代の社会（消費者教育）	情報と社会	
	現代社会と人権		
健康科学入門	食の科学Ⅰ	食の科学Ⅱ	
	薬の科学Ⅰ	薬の科学Ⅱ	
	環境の科学Ⅰ	環境の科学Ⅱ	
	現代の医療と福祉Ⅰ	現代の医療と福祉Ⅱ	
	現代の障がい者問題		

「神戸学院教養分野」各科目について

文理10学部の総合大学としての強みを生かした教養（リベラルアーツ）科目を展開し、みなさんが文化・社会・自然に関する広く豊かな知識に触れ、豊かな感受性をもって主体的に考えていく姿勢をはぐくみます。教養教育の在り方が問われているなか、10学部が連携し担当するさまざまな教養科目を通して、生涯学び続けるために必要な自立的学習基盤と社会人として備えるべき倫理観・責任感を醸成し、生産性や効率ばかりを求めるのではなく、将来みなさんが新しい価値を創造し、より良い社会を築いていけるようになることを目的としています。

「男女共同参画推進論」「ジェンダー論」（男女共同参画推進室の科目）

多くの学術分野で重要な概念として使用されつつあるジェンダーについて、さまざまな観点から考察することを通じて、ジェンダーの課題を自分自身の生活と関連付けて考える力を養うことを目的としています。授業を通じ、生物学的性差とジェンダーの視点についての基礎的知識と考え方を修得し、説明できることを目標とします。

履修系統図

		1年次		2年次		
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	
人文科学系	人文科学入門 A	→	欧米の社会と文化 I	→	欧米の社会と文化 II	
	人文科学入門 B	→	アジア・アフリカの社会と文化 I	→	アジア・アフリカの社会と文化 II	
		⇒	日本の歴史と文化 I	⇒	日本の歴史と文化 II	
		→	こころの科学 (注1)	→	現代社会と心理学 (注1)	
		→	ジェンダー論			
社会科学系	法学部以外	社会科学入門 A	→	法と社会 I	→	法と社会 II
			⇒	現代の政治	⇒	
	経済学部・経営学部以外	社会科学入門 B	⇒	現代の経済 I	→	現代の経済 II
			→	現代の経営 I	⇒	現代の経営 II
	全学部	男女共同参画推進論 (注2)	→	現代の社会 (注2)	→	現代の国際関係
		⇒	現代社会と人権 (注2)	⇒		
健康科学系	健康科学入門	⇒	食の科学 I (注4)	→	食の科学 II (注4)	
		→	薬の科学 I (注5)	→	薬の科学 II (注5)	
		→	環境の科学 I	⇒	環境の科学 II	
		→	現代の医療と福祉 I (注3)	→	現代の医療と福祉 II (注3)	
		→	現代の障がい者問題 (注3)			

凡例

 任意の科目を選択可能

注1：心理学部は「こころの科学」、「現代社会と心理学」を除く。

注2：現代社会学部は「現代の社会」、「男女共同参画推進論」、「現代社会と人権」を除く。

「現代の社会」、「男女共同参画推進論」、「現代社会と人権」は現代社会のさまざまな側面を考察する科目群である。

注3：総合リハビリテーション学部は「現代の医療と福祉 I・II」、「現代の障がい者問題」を除く。

注4：栄養学部は「食の科学 I・II」を除く。

注5：薬学部は「薬の科学 I・II」を除く。

地域学分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
地域学入門A (神戸学入門)	地域学講義 I A (兵庫学)	地域学講義 II A (社会貢献とボランティア)	地域学演習 A (実業界人物伝を読む)
地域学入門B (兵庫の自然地理)	地域学講義 I B (環境学)	地域学講義 II B (都市比較論)	
地域学入門C (現代観光論)	地域学講義 I C (地方創生と観光)	地域学講義 II C (地方自治体の都市政策)	地域学演習 B (データ活用を通じた地域理解)

地域学入門 A (神戸学入門)

地域学とは歴史、文化、経済といった側面から多面的に地域を分析する学問であり、そこから地域に関する知識を得ること、さらに地域の諸問題を理解し、その解決策を考えることに繋がります。本講義では神戸の地を理解するために、神戸の成り立ちとゆかりの人物を取り上げ、彼らの各方面での業績から、多面的に神戸を理解します。神戸に関する歴史、文化、産業など地域の特徴を学び、地域の抱える問題とその対策について、自分なりに意見形成ができるまでの理解に至ります。

地域学入門 B (兵庫の自然地理)

地域の捉え方はさまざまであるが、本授業では地域を自然環境（地形、気候など）から、多面的・多角的、総合的に捉えます。兵庫県は本州にあって太平洋から日本海にまたがる県です。そして東京都と神奈川県、埼玉県を合わせた広さをもっています。本授業では地理的な見方・考え方を学ぶために地図を用いて、兵庫の概要や特色、空間的ひろがり、他地域とのつながりを考えます。そして地域に関心をもち、地域の概要や特色を自然地理と環境から説明できるようになることを目標にしています。

地域学入門 C (現代観光論)

観光立国を掲げる日本の観光業の現状について理解します。観光をめぐる産業は21世紀の日本を担う重要な産業として考えられています。それは政府の成長戦略や2008年に創設された観光庁など国を挙げての取り組みからも窺えます。国内においては都市と地方の格差が叫ばれ、地域活性化の手段として観光が期待されています。本講義では観光に関する基礎知識を身に付け、その知識をもとに現代の観光について考えます。

地域学講義 I A (兵庫学)

兵庫県が日本の都道府県では最大の旧5カ国（厳密には7カ国）から成る事実をまず知り、それぞれ気質の異なる旧国がなぜ同じ県に集約されることになったのかを考えます。「兵庫」の語源とは何か、5つの顔をもつといわれる兵庫県がどのように生まれたのか。特異な県内の祭りや産業、風土や文化を歴史的に探り、各地域に根付く独自の文化に思いをはせ、地域の特色と圏域の全体像、将来像も展望します。

地域学講義 I B (環境学)

兵庫県は全国的に見ても温暖な地域の一つで、大都市から農山村、離島までさまざまな地域で構成されており県域が広範囲に及ぶため、多様な気候と変化に富んだ風土をもっています。北部は豊かな森林丘陵地や田園地が広がるとともに、標高700～900m級の山並みが連なり、中南部は市街地が広がっており、山並みから切り離された丘陵部が市街地内に点在しています。そして多くの河川が南北に流れ、瀬戸内海には大小40余りの島が点在し、群島を形成しています。授業では県全域のもつ特性を分析しながら地理学（自然地理）の視点で兵庫県を考えます。

地域学講義 I C (地方創生と観光)

人口減少社会の到来や経済のグローバル化により衰退した地域をどのように考えていくかという問題が大きくなってきています。地域が抱える問題は現代社会が抱える問題でもあり、そのようななか、まちづくりが注目されています。地域活性化の手段として観光資源を観光まちづくりに活かし、成功している地域も数多くみられます。神戸は近代以降、外国人居留地の設置やポートアイランドの建設などといった、全国でも類をみない“先進的なまちづくり”の歴史をもつ街です。神戸を通して地域の未来、方向性そして地方創生を、学生が主体的に考えることができるようになることを目標とします。

地域学講義Ⅱ A (社会貢献とボランティア)

阪神淡路大震災の経験を主たる参考資料とし、災害ボランティアに対する実践的な視点での理解を目指します。また、地方公務員や消防・警察・自衛隊の災害時における活動と、現行法制度との間の問題点を理解します。災害に対する対応事例研究を通じて、各自の専門分野における社会貢献の在り方に対して意見形成させます。

地域学講義Ⅱ B (都市比較論)

神戸市の立地条件や都市としての魅力を改めて評価・確認するために、主に人口規模と港湾を視点として、国内外の類似点をもつ他都市との比較を行い、神戸の活性化に向けてさまざまな都市問題の解決に対する案を学生とともに考察します。

地域学講義Ⅱ C (地方自治体の都市政策)

少子高齢社会の中での神戸市の政策を考えるために、地方税などの地方財政制度の基礎を理解し、今後の人口動態や税収の推移などのデータを検討し、将来的な課題を明らかにします。インバウンドの波が神戸にあまり及んでいない現状に対して、外国人観光客を呼び寄せる新たな神戸観光プランを学生とともに提案します。

地域学演習 A (実業界人物伝を読む)

前半は代表的な人物を取り上げ、企業経営の流れからターニングポイントとなった重要な経営判断の事例を解説し、後半での学生発表のモデルを提示します。学生は兵庫・神戸の実業界で活躍した経営者から、各自が一人選びその人物に焦点を絞って、発表を行います。

地域学演習 B (データ活用を通じた地域理解)

活字化された各種データやネット上にアップされている統計データの活用に関するノウハウを講義します。活用するデータに関しては、神戸・兵庫・関西の理解を主眼とし、観光・地方創生・災害をキーワードとしたものとします。

履修系統図

神戸を主たるフィールドにして、3つの入口から一つを選んでください。
第1 Semester・第2 Semesterは、系統性を持ちます。

	1年次		2年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
人文科学	地域学入門A (神戸学入門)	地域学講義Ⅰ A (兵庫学)	地域学講義Ⅱ A (社会貢献とボランティア)	地域学演習A (実業界人物伝を読む)
自然環境	地域学入門B (兵庫の自然地理)	地域学講義Ⅰ B (環境学)	地域学講義Ⅱ B (都市比較論)	地域学演習B (データ活用を通じた地域理解)
観光学	地域学入門C (現代観光論)	地域学講義Ⅰ C (地方創生と観光)	地域学講義Ⅱ C (地方自治体の都市政策)	
テーマ	地域資源を理解する		地方自治体の政策	学びを政策提案へ

凡例  任意の科目を選択可能

芸術分野

1年次	
前期	後期
西洋美術	造形論・色彩論
日本と東洋の美術	美術演習
西洋音楽	基本音楽理論
日本と世界の民族音楽	歌唱・合唱演習

芸術分野は、大きく美術分野と音楽分野とに分かれています。

美術分野では、知識と教養の教育としての講義科目「西洋美術」と「日本と東洋の美術」を、さらに、実際に造形物の創作を行う「造形論・色彩論」、絵画の制作を行う「美術演習」を開講します。

音楽分野では、知識と教養の教育としての講義科目「西洋音楽」と「日本と世界の民族音楽」を、さらに、音や音楽の基礎的な理論と楽譜の仕組みを学修する「基本音楽理論」、そして実際に声を出して音楽を実践する「歌唱・合唱演習」を開講します。

西洋美術

西洋美術全般について、その歴史と実相を講義します。西洋の美術は、古代宗教の時代に起こり、古代ギリシャにて最初の頂点に達します。やがて周囲の異文化の影響を受けながら、キリスト教美術、ルネサンス、バロック、ロココ、ロマン主義などを経て、20世紀以降の印象主義からシュールレアリズムに至ります。各時代の優れた美術作品を紹介するとともに、歴史的な流れを論じていきます。

日本と東洋の美術

造形や絵画というものは、古くから世界各地に見られるものです。本講義は、日本をはじめ西洋以外の世界の美術について講じるもので、衣服から、絵画、仏像、建築物のような造形に至るまで、古今東西の美術を論じます。時代や地域の違いによって、文明の性格が異なるのと同様に芸術表現もさまざまに異なります。芸術を通じて、人間の想像力とその文化の多様性について論じ考察します。

造形論・色彩論

美術作品を造形としての姿や、色彩として捉え、創作者や時代を意識しつつも、それらを超越した見方で観察、鑑賞、分析し、考察します。さらに、実際に造形物を創作します。美術に対する新たな見方を知り、創作の実践を経験することで、芸術に対する新たな知見を獲得します。

美術演習

幾つかの美術作品をピックアップして鑑賞し、細部に至る分析を行います。さらにそれを踏まえ、自らも美術作品の制作を行い、そのことを通じて創作の現実や創作者のもつ技術を、実体験として学習します。こういった活動を通じて、創作や創作者の実相を知り、美術、そして芸術というものを実感を持って理解します。

西洋音楽

今日一般の音楽の基礎となっている西洋音楽について、クラシック音楽を中心にその歴史と実態を講義します。西洋音楽は、古代文明での発生からギリシャ劇の音楽、キリスト教会音楽、ルネサンス音楽を経て、クラシック音楽に至ります。こういった背景とともにクラシック音楽の実相を紹介解説し、今日のその現状をも考察します。

日本と世界の民族音楽

世界各地にはその地域と人々の営む多種多様な文化があり、そこに多種多様な音楽が存在しています。本講義ではそれらさまざまな音楽文化を講じ、ときに体験しながら、音楽と文化の多様性を探究し、それらを通じて深く柔軟な思考力や洞察力を養います。

基本音楽理論

音楽は、感情の表現であるとともに、理論的な仕組みに寄って成り立ってもあります。一方西洋音楽では、楽譜という形で音楽を記号として記述しており、この楽譜は、今日ではポピュラー音楽も含めて、多くの音楽において世界的に使用されています。この授業では、楽譜というものを改めて知り、音楽をある程度理論的にとらえる方法を学習します。

歌唱・合唱演習

本演習では、音楽の基本である歌唱を実践を伴って理解し、合唱の形に昇華していきます。楽譜を読み解き、音に変換し、さらにその音を他者が表現した音と融合させるというものです。こういった協働作業は、自らの表現を確立した上で他者との関係を築く、という社会活動の基盤を身につける足掛かりとなるでしょう。

履修系統図

	1年次	
	第1 Semester	第2 Semester
美術	西洋美術	造形論・色彩論
	日本と東洋の美術	美術演習
音楽	西洋音楽	基本音楽理論
	日本と世界の民族音楽	歌唱・合唱演習

凡例  任意の科目を選択可能

スポーツ科学分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
スポーツ科学入門	スポーツと健康 A	スポーツと健康 B	
健康・体力づくり演習	スポーツ科学演習 A	スポーツ科学演習 B	

健康・体力づくり演習

ウォーキングやレクリエーションなどのライトスポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感するとともに、生涯スポーツおよび健康づくりの方法を講義で学び、運動習慣を身につけることを目的とします。

スポーツ科学入門、スポーツ科学演習 A・B

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習 A・B の入門講義です。スポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技規則などについても説明を行います。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、素晴らしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際の魅力を学びます。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっています。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となります。身体運動の実践による個人に応じた技能の向上と競技規則・戦術などを理解します（キャンパスにより種目は異なります）。

スポーツと健康 A・B

近年我が国では、少子高齢社会を迎え「健康」や「体力」に対する関心が高まっています。生涯にわたってスポーツとかわかり、「健康で豊かな日々を過ごす」ために必要な知識や、文化としてのスポーツ、身体運動の仕組みなどを学びます。

履修系統図

1年次		2年次	
第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
スポーツ科学入門	スポーツ科学演習 A	スポーツ科学演習 B	
健康・体力づくり演習			
	スポーツと健康 A	スポーツと健康 B	

健康・体力づくり演習 = ウォーキング、レクリエーション・スポーツ、ストレッチング、基礎トレーニングなど

スポーツ科学演習 A = ゴルフ、テニス、卓球、ヨガ、バスケットボール、サッカー、バレーボール、バドミントン、ソフトボール

スポーツ科学演習 B = テニス、卓球、ヨガ、バスケットボール、サッカー、バレーボール、バドミントン

凡例 -----> 先行科目の履修を推奨します

ポアイ4大学・TKK共通教養分野

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
地域コミュニティ入門	防災・防犯ワークショップ	地域連携インターンシップⅠ	地域連携インターンシップⅡ
防災・防犯入門	健康づくり・生活支援ワークショップ		
健康づくり・生活支援入門	防災・防犯指導論実習		
	健康・生活支援指導論実習		
	人間関係づくりワークショップ		
社会貢献学入門(TKK科目)			

ポアイ4大学共通教養科目

ポータアイランドにキャンパスを置く、神戸学院大学・神戸女子大学・兵庫医科大学・神戸女子短期大学の4大学は、隣接しているという利点と各大学の特色を活かしつつ高度な研究・教育活動で連携、また、地域・企業・自治体などとも交流・連携しています。この分野では、文部科学省から「戦略的大学連携支援事業」として採択された教育活動の取り組みとして、2009年度より、各大学の特色を活かした健康、生活、防災、地域等をテーマとする授業を展開しています。神戸学院大学に在籍しながら、他大学の授業を受講することで、より幅広い学びを身につけることができます。

安全・安心・健康をテーマとした科目群で、リスクマネジメントやコミュニケーションについて多く学べるのが特徴で、地域活動への参加そのものを単位として設定するインターンシップも充実しており、地域性や生涯教育に配慮した内容となっています。

他大学の学生とともに同じ教室で学び、互いの専門性を刺激しながら教養を深め、コミュニケーション能力を伸ばします。

TKK科目

東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学の連携プロジェクト「防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献活動の展開」の一環として、遠隔システムを利用した「社会貢献学入門」を開講しています。3大学がそれぞれの特色や強みを活かしつつ、文系と理系の融合により高度な社会貢献に関する研究・教育を行い、社会に貢献できる人材を目指す本課程において、社会貢献を学問として学ぶ上での導入的な役割を担い、基礎的な知識を広く身につけます。

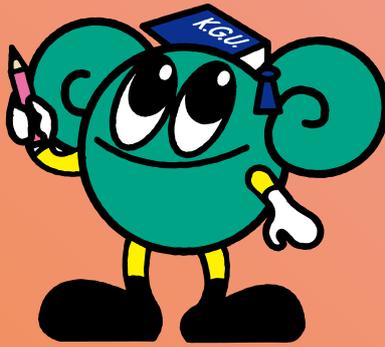
履修系統図

	1年次		2年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
ポアイ4大学連携 戦略的 教養	地域コミュニティ入門	防災・防犯ワークショップ	地域連携インターンシップⅠ	地域連携インターンシップⅡ
	防災・防犯入門	健康づくり・ 生活支援ワークショップ		
	健康づくり・生活支援入門	防災・防犯指導論実習		
		健康・生活支援指導論実習		
科目 連携		人間関係づくりワークショップ		
	社会貢献学入門(TKK科目)			

編集・発行 **神戸学院大学 共通教育センター**

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518番
TEL (078) 974-1551 (代)

KOBE GAKUIN UNIVERSITY



神戸学院大学